

BAMBOO

関連イベント

① **作品解説** (申込不要) ※直接会場へお越しください。
担当学芸員から本展の見どころについて説明します。

[日 時] 令和7年1月25日(土) 14:00~14:30
[会 場] さかい利晶の杜 2階企画展示室
[参 加] 無料(要観覧券)

② **花かごワークショップ** (要申込・先着順/申込方法は下記をご覧ください)
はじめての方にも体験可能な、竹で編んだ花かごを制作します。

[日 時] 令和7年2月2日(日) 14:00~16:00
[講 師] 四代 田辺竹雲齋氏、田辺竹雲齋工房の門下生の方々
[会 場] さかい利晶の杜 2階講座室
[定 員] 10名(小学校高学年以上)
[参 加] 1,000円(別途、要観覧券)

③ **講演会&実演「伝統をつなぐー過去・現在・未来へー」**
(要申込・先着順/申込方法は下記をご覧ください)

四代 田辺竹雲齋氏が大切にしている次世代への伝承を中心に、堺で代々続いてきた竹工芸家の田辺家についてご息女・ご子息と門下生の方々による実演を交えながらご講演いただきます。

[日 時] 令和7年2月23日(日) 14:00~15:30
[登壇者] 四代 田辺竹雲齋氏、田辺謙良氏、田辺香来氏、田辺眞人氏
[会 場] さかい利晶の杜 1階茶室広間
[定 員] 40名
[参 加] 無料(要観覧券)

申込方法 Webまたは電話

【さかい利晶の杜:072-260-4386】でお申し込みください。
右記のQRコードから、お申し込みいただけます。>>>>>
申込開始日:12/2(月)から(申込先着順)



次回企画展

第27回堺市所蔵美術作品展
「堺の竹工芸家たちー前田竹房齋と田辺竹雲齋ー(仮称)」
令和7年9月13日(土)~11月3日(月・祝)[予定] 会場:堺市博物館

堺で活躍した竹工芸家の前田竹房齋と田辺竹雲齋に焦点を当て、歴代それぞれの作家たちの作品を展示します。伝統を受け継ぐだけでなく、伝統を踏襲するなかで新たな芸術が生まれ、竹工芸の歴史が脈々と続いていることを紹介します。伝統から革新へと変化する竹工芸の世界をお楽しみください。

SAKAI RISHO NO MORI さかい利晶の杜
Sakai Plaza of Rikyu and Akiko

〒590-0958 堺市堺区宿院町西2丁1-1
TEL:072-260-4386 FAX:072-260-4725
阪堺線「宿院駅」下車徒歩1分、南海高野線「堺東駅」下車バスで約6分、
南海本線「堺駅」下車徒歩10分/バス3~5分、南海バス「宿院」下車徒歩1分



展覧会・次回企画展についてのお問い合わせ先

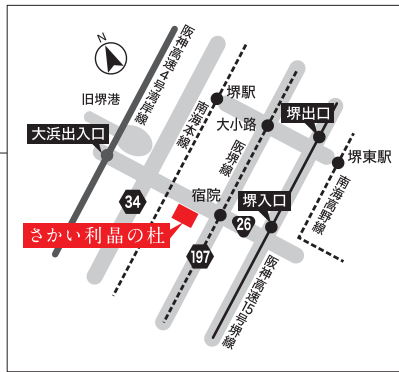
堺市文化課(072-228-7143)



Photo by: Tadayuki Minamoto

四代 田辺竹雲齋 竹工芸家/ Artist

1973年大阪・堺で生まれる。東京藝術大学美術学部彫刻科卒業後、父である三代竹雲齋に師事。2017年四代田辺竹雲齋を襲名。2001年米国フィラデルフィア美術館クラフトショーに招待出品し、オブジェが買上げられる。その後ポストン美術館、大英博物館、フランス国立ギメ東洋美術館、メトロポリタン美術館等で展覧会を開催。用途に即した花籃など代々の技術を受け継いだ竹による作品の制作を続けながら、自然と人の融合をコンセプトとし、「過去・現在・未来」や「生・死」など対比するテーマをメインに、インスタレーションや現代的なオブジェを制作。特に世界各地で展開する空間に広がるインスタレーションは竹工芸の新しい可能性を見出している。2022年芸術選奨文部科学大臣新人賞、大阪文化賞を受賞。



SAKAI RISHO NO MORI

さかい利晶の杜
Sakai Plaza of Rikyu and Akiko



第26回堺市所蔵美術作品展

竹工芸のかたち

伝統から革新へ



令和7年
1月25日[土]
3月2日[日]

さかい利晶の杜

企画展示室
(堺市堺区宿院町西2丁1-1)

「開館時間」午前9時から午後6時まで(入館は午後5時30分まで) ※最終日は、午後3時まで。
「休館日」2月18日(火) 「観覧料」大人(大学生含む)300円、高校生200円、中学生以下無料
※「千利休茶の湯館」/「謝野晶子記念館」の観覧券で、観いただけます。
※障害のある方と介護者、堺市内在住の65歳以上の方は無料です。
(受付時に障害者手帳、住所・年齢のわかるものをご提示ください。)
「主催」堺市「共催」さかい利晶の杜「後援」大阪府、堺市教育委員会



©Expo 2025

四代 田辺竹雲齋/彦十時絵 若宮隆志(登龍門) 2016年 夢工房蔵
Photo by: Tadayuki Minamoto

魚籠



籠師



編組技法

竹工芸は、丈夫でしなやかな竹の特質を活かし、竹の種類や編組技法を変えて、様々な用途にあった「かたち」が創られてきました。

茶道具としては、わび茶を大成した千利休(1522~91)が、花入に従来の精緻な唐物籃ではなく、漁師が使う目の粗い和物籃(魚籠)を用いたことがはじまりとされます。江戸末期には中国から伝来した煎茶道の流行により、唐物籃を写した竹工芸がつくれ、竹工芸をつくる専門の職人(籠師)が活躍していました。明治期には、文人趣味の憧憬から竹工芸を芸術作品として捉える傾向が高まり、籠師の中には自由自在に竹工芸を創作する職人もいました。堺では、前田家と田辺家の二つの大家が竹工芸家として活躍していました。

本展は、竹工芸の魅力である「かたち(造形)」に焦点を当て、竹工芸の原点である茶道具や唐物籃、さらに芸術作品としての竹工芸を紹介します。また、堺の竹工芸家の前田家と田辺家の歴代の作品をとおして、道具から美術工芸へと発展した竹工芸の流れを振り返ります。そして、世界的に活躍する四代田辺竹雲齋やその一門による作品をご覧ください。継承のなかに生まれる新しい竹工芸のかたちに迫ります。

BAMBOO

四代 田辺竹雲齋 竹工芸家/ Artist

本作品は、「art KYOTO 2020」(京都国立博物館 明治古都館)にて制作されたインスタレーションです(撮影:道 忠之)。また、2023年G7大阪・堺貿易大臣会合の歓迎行事会場(ホテルアゴーラリーゼンシー大阪堺)のインスタレーションにも同様の竹材が使用されました。本展では、それらの竹材を用い、新たに当館の空間に合わせて制作されます。



「かたち」からわかる
竹工芸の美しさ

1 喫茶文化と「用の美」 [作品②・③]

喫茶文化(茶の湯・煎茶道)の道具としての「かたち」をとおして、「用の美」(実用性の中にある美しさ)を紹介します。また、煎茶道が流行した江戸時代の資料として堺環濠都市遺跡の出土遺物から茶器類を展示します。



《涼炉と伊万里染付煎茶碗》
江戸 堺市文化財課蔵

2 文人趣味と「造形の美」 [作品①・④]

文人趣味(中国の知識人たちが好んで嗜んだ、香や茶、詩書画などの趣味)の流行から伝わった唐物籃を写した竹工芸、またその文人趣味から生まれた和物籃。それぞれの「かたち」をとおして、「造形の美」をご覧ください。

3 堺の竹工芸 [作品⑤・⑥]

堺の竹工芸家である前田竹房齋(前田家)と田辺竹雲齋(田辺家)。2家の竹工芸家による歴代の作品をとおして、竹工芸の伝統と革新をご覧ください。ことで、堺に伝わる「かたち」の変化を紹介します。

4 現在、そして未来の竹工芸 [作品⑦・⑧]

現在、堺の地で伝統を継承し、革新を続ける四代田辺竹雲齋。その創作に対する精神は、次の世代(未来)にも繋がっています。四代竹雲齋の作品と3人の門下生による作品をとおして新しい竹工芸の「かたち」をご覧ください。

- ①初代 前田竹房齋《芭蕉葉形盛籃》明治中期~昭和初期 堺市蔵
- ②二代 前田竹房齋《方円形炭斗》昭和~平成 堺市蔵
- ③二代 田辺竹雲齋《古竹 宗全籃》昭和 夢工房蔵
- ④初代 田辺竹雲齋《唐物写四神花籃》1918~30年 夢工房蔵
- ⑤三代 田辺竹雲齋《砦》1971年 個人蔵
- ⑥二代 前田竹房齋《花籃 和》1970年 堺市蔵
- ⑦四代 田辺竹雲齋《古矢竹舟形花籃 東風》2022年 個人蔵
- ⑧上杉朋《饗花籃 裏山吹》2019年 あびこ山大聖観音寺蔵